

## 令和 6 年度 県立友部特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆明るく楽しさみなぎる学校 ◆力いっぱい活動できる学校 ◆家庭や地域に開かれた学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○管理職と部主事等の幹部教職員は同じ職員室で執務にあたり、常に意見交換のできる環境にあり、風通しの良い関係を築いている。</p> <p>○部主事は各教員とそれらの情報を共有することで、学校全体で方向性を共有しており、同僚性は高まっていると評価している。</p> <p>○校内の研修と計画訪問を組み合わせ、大学教授を招聘して学校全体で授業改善に取り組んだ。モデルとなる授業者だけでなく、全員が自分の授業に置き換えて改善していく方法で、全員が授業を見直すことができた。</p> <p>○授業づくりでは、児童生徒対象の授業に関するアンケートを行い、授業が楽しいと半数以上が回答。一方で ICT を活用した授業は全ての部で楽しいと回答した割合が高く、一定の成果があったと評価している。</p> <p>○ととくマルシェは4回開催し、多くの地域の方に来校いただいた。多数の方に買い物をしていただき、生徒の励みとなっている。</p> <p>○コロナ禍で中止や制限ありの開催となっていた関係機関との連絡会議や学校間交流等も、予定通り開催するこ</p>	<p>1 一人一人が学ぶ楽しさを実感できる授業づくりの推進</p> <p>2 一人一人の障害の状態に応じた自立と社会参加を目指す教育の推進と地域に開かれた学校づくり</p> <p>3 自分の体や健康への関心を高め一人一人の体力の向上と心の育成</p> <p>4 安全・安心な教育環境の整備と保護者、地域、関係機関との信頼関係の醸成</p>	<p>① 「できた」「わかった」「もっとやってみたい」と感じる授業づくり ・「めあて」「課題」を適切に設定し、児童生徒自身の「まとめ」や「振り返り」を大切にした実践</p> <p>② ICT の効果的な活用と教師間の情報共有、職員研修の実施</p> <p>③ 自立活動の充実 ・専門家の活用や自立活動シート及びブラッシュアップシートの活用</p> <p>④ 各部の主体的な経営 ・教員、指導員のアイデアを活かした取組み</p> <p>① 卒業後の視点を踏まえた小学部・中学部・高等部の系統性のあるキャリア教育の推進</p> <p>② コミュニティースクールの実践 ・地域資源や施設等を活用した職業体験学習、体験的な活動をとしての人や社会とつながる授業の充実 ・学校間、学校と地域の繋がり、互いの学び合いを大切に交流活動の実施 ・ととくマルシェの開催</p> <p>③ 全校あいさつ運動 ・あいさつマイスターの認定</p> <p>④ 教員の専門性向上に向けた各種研修の実施と専門性を活かしたセンター的機能の充実</p> <p>① 相手の考えを尊重し、人を思いやることのできる豊かな心の育成</p> <p>② 専門家や保護者と連携した安全・安心な給食と食育、健康教育の推進 ・からだが喜ぶ給食</p> <p>③ 児童生徒が主体的に取り組む防災安全教育の計画的な実施</p> <p>④ 感染症等予防対策の徹底と衛生面の意識向上</p> <p>① 児童生徒が安心して学習や生活ができる教育環境（施設設備等）の整備</p> <p>② ヒヤリハット事例の共有、各種マニュアルの見直し・改善による危機管理体制の充実</p> <p>③ 服務規律の確保とコンプライアンス意識の更なる向上を目指したボトムアップ型研修の計画的な実施 児童生徒の手本となり、おもてなしの気持ちと明るくきれいな学校を目指す取組（整理・整頓・清潔・清掃）</p>	

とができ、コロナ前と同じような地域との関りを再開することができた。 △ 5月に友部東特別支援学校と合同で「引き渡し訓練」を実施する。近隣の地域の方の理解や協力を得られるよう準備、運営する。		5 働き方改革	① 良い授業づくりをするための時間づくり ② 時間の使い方についての意識改革と勤務時間の適正管理 ③ 業務改善（校務内容、学校行事の見直し、会議の効率化の推進等）			
評価項目	具体的目標	具体的方策		重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	同僚を良く知ることで、相談や助言をしやすい関係をつくり、不祥事の起こらない職場環境となるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員同士と一緒に研修や作業、行事の運営等を行うことで、話をする機会や相手を知るきっかけとする。</li> <li>・ 教員面談時に職場環境等について聴取</li> </ul>		1—④ 4—③ 5—①		
教職員の 育成及び 指導・監督	専門性のさらなる向上と、人を思いやる豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員面談時等に、授業参観の感想を踏まえた指導助言</li> <li>・ 日頃から各教員との対話を大切にするここと、指導助言しやすい友好的な関係を構築</li> </ul>		1—② 2—④ 3—①		
対外活動	地域住民や近隣の関係機関、施設職員と、防災活動や生徒の活動も交えながら交流を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ととくマルシェを地域に広く周知しながら定期開催</li> <li>・ 関係施設及び鯉淵北防災連絡会等の開催（年間計3回）</li> <li>・ 学校間交流、地域交流の実施</li> </ul>		2—① 2—③ 2—④		
コンプライ アンス確保	職場での良好な人間関係を構築し、風通しのよい職場環境を築く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統一テーマを題材とした各部研修の実施</li> <li>・ 校長作成のコンプライアンスだよりを月1回以上発行</li> </ul>		3—① 4—① 4—③		
働き方 改革	時間の使い方についての意識改革をすすめ、勤務時間の適正管理を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に時間を要する業務の担当者から状況を聴取</li> <li>・ 実施計画を見直し、開始時間の工夫等により改善</li> </ul>		1—② 1—④ 5—① 5—②		
I C T活用	全児童生徒に対し、ICTを活用した支援により、より主体的な活動を引き出す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業等において積極的にI C Tを活用</li> <li>・ 職員会議後に実施するI C T研修において、各教科のICT活用例を全員で研修</li> </ul>		1—① 1—②		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない